



～乃木地区で暮らしていた弥生の人々について考えてみよう～

たわやまいせき      じごでいせき      ともだいせき

## 田和山遺跡と神後田遺跡と友田遺跡

神後田遺跡と田和山遺跡は500m程離れています。丘陵に登るとお互いがよく見えます。田和山遺跡は弥生時代前期末から中期後葉の遺跡です。前期末に3重環壕のうち、一番頂上に近い環壕が作られました。そのあとに外側の環壕がつくられ、3重環壕となりました。田和山遺跡では弥生前期末の住居跡はみつかりませんが、弥生中期に環壕の外側に集落が形成されたことがわかっています。

友田遺跡は田和山遺跡と神後田遺跡の中間に位置する遺跡です。弥生時代前期末～後期にかけてのお墓がみつかりました。お墓から管玉や勾玉といった副葬品や、たくさんの石鏃も発見されました。田和山遺跡や神後田遺跡が機能した時代と重なり、集落に住んだ人々が埋葬されていたのでしょうか。

田和山の環壕が作られ始めたころ、人々はどこに住んでいたのでしょうか。神後田遺跡はそんな田和山の謎を解明するうえで大きな意味をもちます。



発掘調査時の田和山遺跡

松江市まちづくり文化財課埋蔵文化財調査室

## じごで 神後田遺跡発掘調査現地説明会



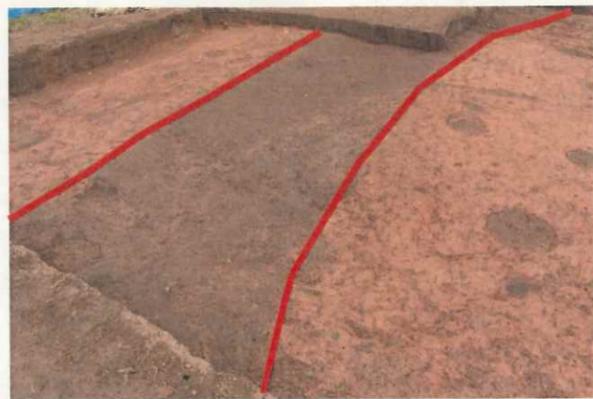
## ①新発見の環壕集落 神後田遺跡

神後田遺跡は松江市浜乃木5丁目に所在する弥生時代の環壕集落です。平成29年度に発掘調査をしたところ、これまで遺跡があると知られていなかった場所で新たに発見されました。環壕集落とは、集落のまわりを溝で囲った遺跡のことを指します。弥生時代に全国で多くつくられました。溝は1重のものや3重のものなど規模は様々で、神後田遺跡は1重の溝が廻っていたと考えられます。

今回の発掘調査は、これまで部分的に見つけていた環壕や、<sup>たてあな</sup>竪穴建物について、規模や詳細な性格を明らかにすることを目的として行いました。調査の結果、環壕から弥生時代前期末の土器や、<sup>こくようせき</sup>黒曜石の破片、人頭大から拳大ほどの礫が出土しました。



検出された環壕①(T15 SD01) (北より)



検出された環壕②(T17 SD48) (北より)

## ②燃えた痕跡の残る住居跡

調査では竪穴建物が2棟見つかりました。そのうちの1棟は埋まった土に大量の焼けた土がまざっていたり、炭化した柱材が見つかったことから、燃えて廃絶されたものと考えられ、焼土の検出状況から土で屋根がふかれた建物だったと考えられます。また、建物が小規模のものから大きいものへ拡張されていることもわかりました。建物の中からは、弥生時代後期の土器や水晶と思われる石、黒曜石の破片が見つかりました。土器の年代から、環壕が埋められた時期より新しい時期の建物だということがわかりました。



焼失住居 (T16 SI49) (南より)

竪穴建物ってなんだろう???

竪穴建物とは、地表を掘り下げて床面を作った建物のことを呼ぶよ。縄文時代からみられる建物で、古代末頃まで多くみられる建物だよ。田和山遺跡にも同じ構造の建物が見つかっていて復元されているよ!



田和山遺跡キャラクター  
タワヤマン



遺跡位置図 (S=1/25,000)

江戸時代の溝もみつかりました。1m以上の深さがあります。

近世の大溝 (T19 SD51) (西より)



時期不明の柱穴列検出状況 (T18) (北より)

弥生前期の環壕

柱穴列

T-18

環壕より新しい時期の竪穴建物 (SI50)

47m

T-14

(平成30年度調査)

SD45

燃えた痕跡の残る  
竪穴建物 (SI49)

T-16

黒曜石廃棄土坑

黒曜石の破片

弥生前期の環壕

中には黒曜石の破片がいっぱい! 石器を作っていたのかな?



環壕から出土した土器や礫 (T15 SD01) (南より)

T-15

SD01

発掘調査地全体図 (S=1/400)